

「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」
研究開発領域

「新たな高齢者の健康特性に配慮した
生活指標の開発」

鈴木隆雄
国立長寿医療研究センター

RISTEX 

社会技術研究開発センター
Research Institute of Science and Technology for Society

高齢者の自立生活の促進のために

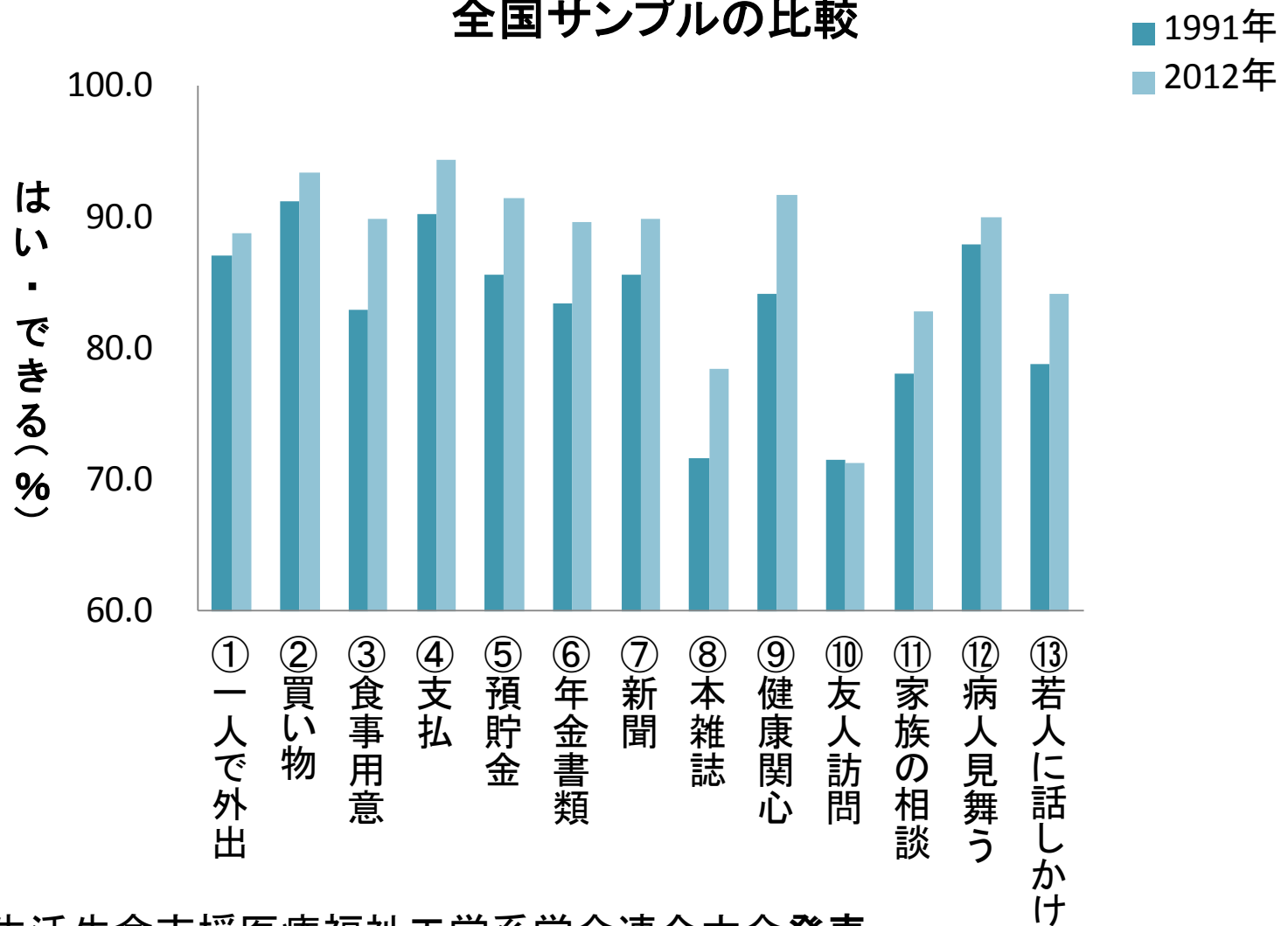
2

- 高齢者の自立生活への手立ての科学的解明が必要
 - ⇒ 正確で、効果的な高齢者の活動能力評価が必要不可欠
 - ⇒ 信頼性・妥当性が確立された老研式活動能力指標(古谷野ら, 1986)

- 健康水準の向上を代表とする高齢者を取り巻く環境の変化により生じた課題
 - ⇒ 上記指標の統計的性質が今日の高齢者の測定にそぐわない(次スライド)

老研式活動能力指標の年代差

全国サンプルの比較



研究開発目標

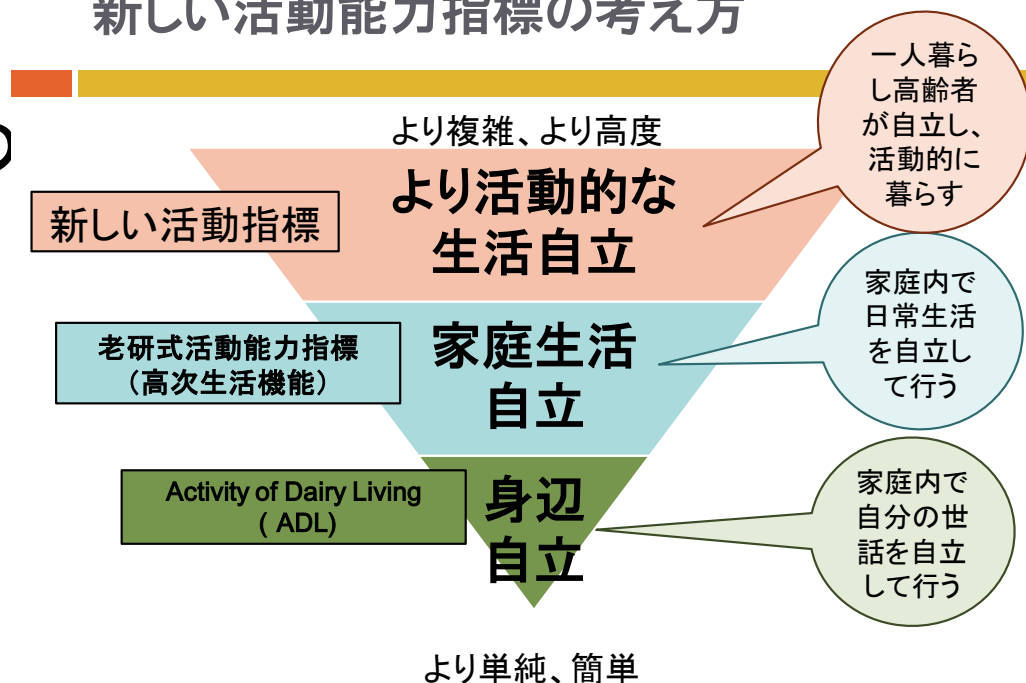
4

□ “今”の日本の高齢者に対応するよう改良した新指標の開発

⇒ 老研式活動能力指標の概念を基盤に、従来の活動能力の考え方を現代の高齢者に合った形に(右図)

⇒ 都市部・非都市部・全国を対象に調査・分析、一般性の高い新指標を開発

新しい活動能力指標の考え方



開発方法の特徴

—対象コミュニティや関与者—

5

- 対象コミュニティ
 - 東京都A区(都市部)
 - 愛知県B市(非都市部)
 - 2度の全国調査
- 主要な関与者
 - 研究者
- 主要な協力者
 - 各分野の専門家
- 学際的で、バラエティに富んだレクチャーを実施
 - 老研式活動能力指標の開発過程と現代の課題
 - IT機器の利用実態と生活能力との関係
 - 高齢者の就労とプロダクティビティ
 - 社会貢献・社会参加に関する実態
 - 高齢者の社会的ネットワークの実態
 - 都市高齢者が日常的に交流する他者
 - 社会活動に関する満足度

成果：新活動能力指標(JST版)：転載不可

6

- 項目は当日のプレゼンテーションでお示しいたします。

新活動能力指標の4つの因子

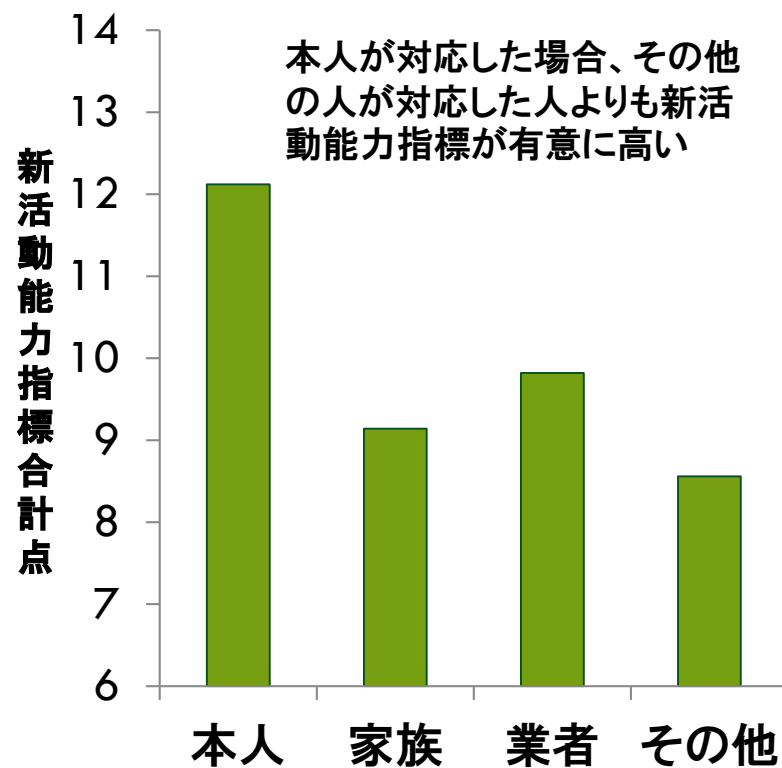
7

- 社会参加
 - 地域組織や行事への参加や社会貢献を行うこと
- 新機器利用
 - 新しい機器を利用すること
- 情報収集
 - 様々な領域の情報に触れること。情報に対するリテラシー(信ぴょう性の判断など)を持つこと
- 生活マネジメント
 - 家庭生活を安心・安全・快適に営むこと

新活動能力指標と他の指標との関連

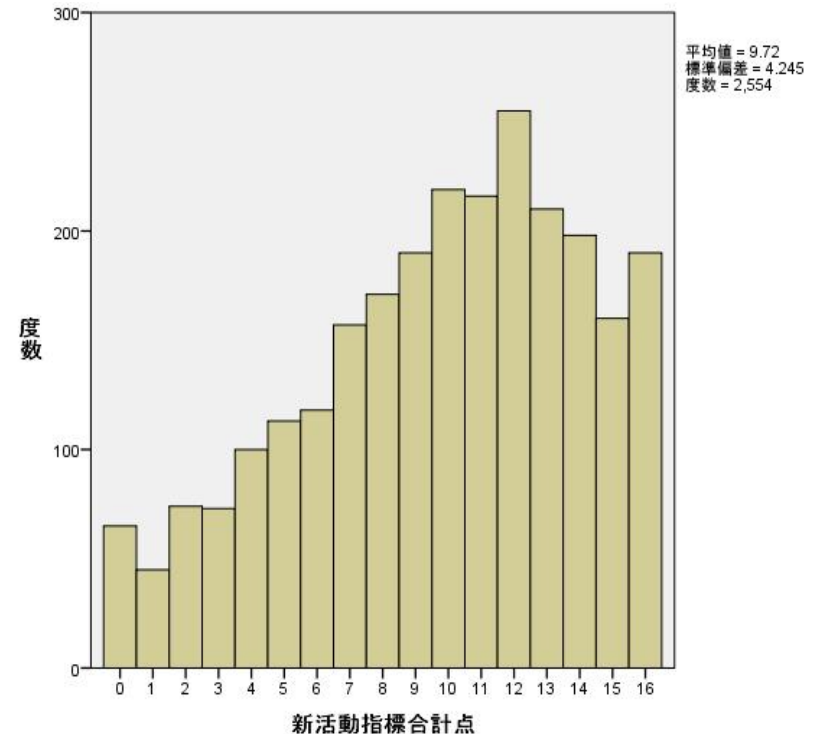
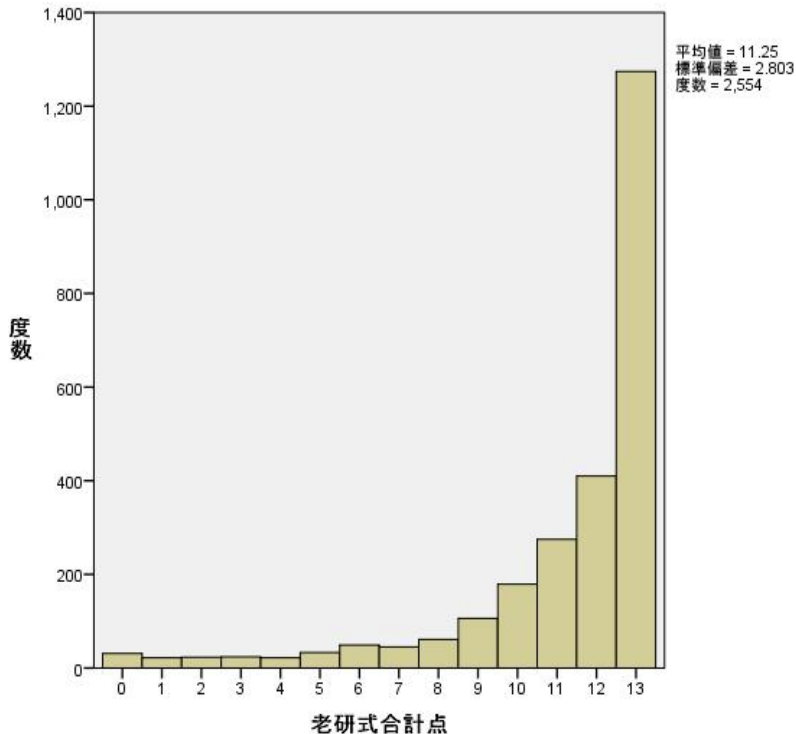
領域	指標の内容	関連の強さ
高次生活機能(老研式活動能力指標)		
身体 健康	体力	高い
	移動能力	高い
	活動量(IPAQ)	やや低い
	健康リテラシー	高い
社会	ソーシャルネットワーク	中程度
	社会組織への参加(垂直的組織)	中程度
	社会組織への参加(水平的組織)	中低度
	活動に対する満足度	高い
精神 心理	精神的健康	中程度
	精神的問題	やや低い
	生活満足度	中程度

「地デジ化」への対応者別の
新活動能力指標得点



老研式活動能力指標よりもより高度な能力を測定できている

9



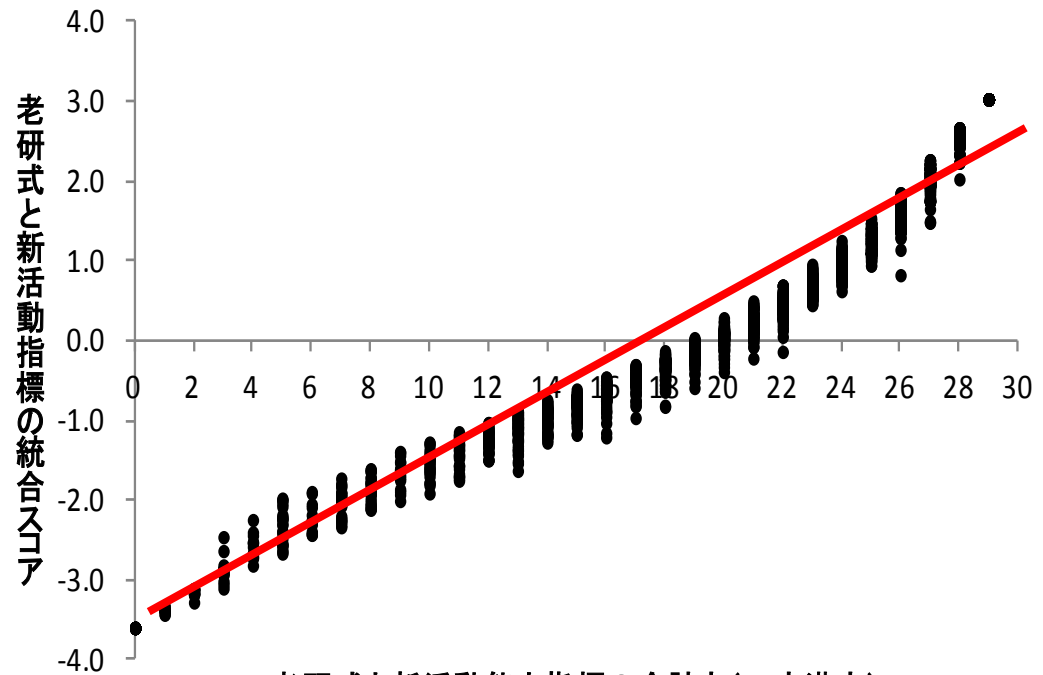
同一の参加者へ2つの指標を実施した時の得点分布
(左:老研式、右:新活動能力指標。2回の全国調査データから)

同一人に2つの指標を実施し、それぞれの分布を描いたところ、老研式ではほとんどの人が満点であったが、新活動能力指標では満点をとる方が少なくなった。

老研式と新活動能力指標を併せて 利用することで……

10

- IADLに障害のある方(日常生活の自立が難しい方)から活動性の高い方まで、様々な高齢者の活動能力を幅広く評価できる。



老研式と新活動能力指標の合計点(29点満点)

新活動能力指標の標準値

新活動能力指標の標準値

	総サンプル(N=2580)				
	平均値	標準偏	中央値	最小値	最大値
新指標合計点	9.72	4.25	10.00	0	16
社会参加	1.68	1.56	1.00	0	4
新機器利用	2.30	1.46	2.00	0	4
情報収集	2.90	1.31	3.00	0	4
生活マネジメント	2.85	1.25	3.00	0	4

平成24年全国データと平成25年全国データを合わせて(N=2580)、新活動能力指標の標準値および各得点が上位何%になるかを求めた。

新活動能力指標: 合計点

パーセン タイル順 位	年齢別		性別		
	全体	65-74	75-84	男性	女性
		歳	歳		
5	2	3	1	2	2
10	3	5	2	4	3
15	5	7	3	5	4
20	6	8	4	7	5
25	7	8	5	7	6
30	8	9	6	8	7
35	8	10	7	9	8
40	9	10	7	10	9
45	10	11	8	10	9
50	10	11	9	11	10
55	11	12	9	11	10
60	12	12	10	12	11
65	12	13	10	12	12
70	13	13	11	13	12
75	13	14	12	13	13
80	14	14	12	14	13
85	14	15	13	15	14
90	15	16	14	15	15
95	16	16	15	16	16

今後の展開

- ① 新活動能力指標の使用マニュアルを作成
⇒ 一般市民、自治体、専門家と誰でも正確に活用できるよう準備
- ② 指標の有用性を含め、普及・啓発
 - 行政による地域健康高齢者の健康度チェック
 - 地域住民全体の健康度、活動度の診断、介入事業の評価
 - 健康度、活動度のセルフチェック
 - より早期の介護予防・孤立予防
 - 高齢者の生活機能・活動能力の研究
 - 老研式活動能力指標よりも高次の能力が測定可能